



第 I 部 総論



第1章 計画策定の趣旨

01 後期基本計画の位置づけ

平成30年3月に、本市では、官民が協力して取り組むまちづくりの指針として、『みんなで奏でる“にぎわい やすらぎ ときめき”の都市 ～元気印のかんおんじ～』を将来像とした第2次観音寺市総合振興計画を策定しました。

この将来像の実現に向けて、本市は企業誘致の推進、観音寺スマートインターチェンジ[※]（仮称）の整備、都市圏からの移住の支援等、まちの活性化や定住につながる多様な取組をはじめ、市民との協働によるまちづくりを進めてきたところです。

一方で、今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、経済・社会活動の停滞やこれに伴う人流の抑制、ひいては市民の生活様式の変化等においても大きな影響を及ぼしています。

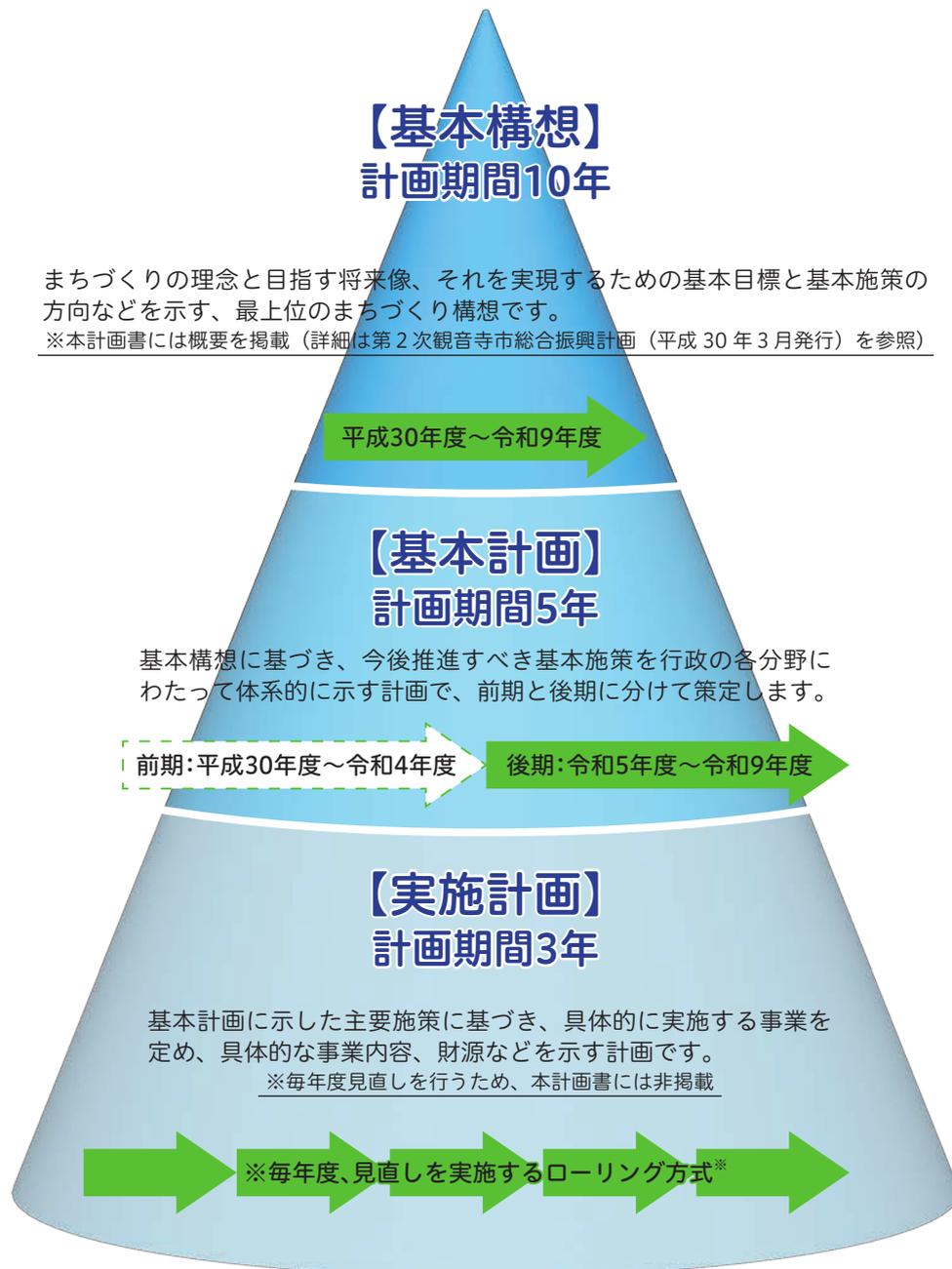
このようなコロナ禍の経験も踏まえつつ、持続可能な経済・社会・環境の実現に向けたSDGs[※]の推進、デジタル技術の活用等によるDX[※]の推進など、時代の変化に即応したまちづくりが求められています。

こういった策定後に生じた新たな要素を的確に反映しつつ、本市の将来像の実現に向けた今後5年間のまちづくりの方向性を明示し、計画的かつ、持続可能な行政運営の実現や、市民とともにまちづくりを進めるための指針として、第2次観音寺市総合振興計画後期基本計画を策定します。



02 計画の構成と期間

本計画は、基本構想・基本計画・実施計画で構成し、それぞれの計画期間に応じて、定期的に評価・検証、見直し等を実施します。





第2章 基本構想の概要

01 理念

理念とは、今後の本市のまちづくりに対する基本的な考え方を示すものです。
本計画の理念を次のように掲げます。

“ ところ ” の継承と創造

～ ささえる つなぐ のばす ～

本市は、穏やかな瀬戸内の自然環境の中で、古くから人々が生活し、長い歴史を有するとともに、「ちようさ祭り」に代表される伝統文化を育んできたまちです。また、西讃地域の中心都市として、人々の学びや仕事、さらには広域的な行政機関が集まる場所として都市機能を担ってきたまちでもあります。これらの歴史、文化、環境が、本市に暮らす人々の精神風土、すなわち“ところ”を形成しています。

このような恵まれた風土や先人たちのたゆまぬ努力により培われてきた、人々の“ところ”を「継承」し、地域資源や市内外の交流による人のつながりなどを有機的に結びつけることにより個性や価値を生み出し、次の世代に引き継ぐ新たな“ところ”を育み、人々が思い描く理想のまちを「創造」していくことを理念とするものです。

そのため、「ささえる」、「つなぐ」、「のばす」という視点に立ち、地域での支え合いや産官学金*の連携、市民と行政とのパートナーシップの形成など、市民と地域の主体的な取組により“まちのつながり”を高めていきます。



地域の個性や多様性と、本市がもつ「人、もの、情報、組織」などを有機的に結びつけることにより、相乗効果を生みだすことを狙いとしています。

地域的優位性や歴史文化、産業など、地域の強みを磨き、本市をさらに発展させることを狙いとしています。

子育て世代が子育てしやすい環境、高齢者が元気にいきいきと暮らせる環境、また、安心して住み続けられる環境を整え、「市民一人ひとりが支え合い、助け合えるまち」を育てあげることが狙いとしています。

02 将来像

将来像とは、これから目指すべき本市の都市像（将来あるべき姿）を示すものであり、市民が共有できる都市のキャッチフレーズでもあります。

みんなで奏でる

“にぎわい やすらぎ ときめき”

ま ち
の都市

～ 元気印のかんおんじ ～

“みんなで奏でる”という表現は、市民みんなが協力してつくるまちを表しています。

これは「観音寺」という名前そのものが“音を観るまち”であることを踏まえ、本市ならではの表現としています。また、本市の伝統文化である「ちょうさ祭り」の音や文化芸術、交流の拠点である市民会館を中心としたにぎわいの音など、まちに息づく暮らしの音を市民みんなで創り上げていく（＝奏でる）ことを表しています。

“にぎわい”は、様々な産業や人が連携し合うことにより新たな活力を生み出すこと、“やすらぎ”は、子どもから高齢者など様々な人々が支え合い安心して暮らせること、“ときめき”は、次世代を担う子どもや若者が元気に育ち、まちづくりやまちの魅力の発信に参加していくことなどをイメージしており、それらが調和し「ひと」と「まち」の双方が元気で活気にあふれる本市の姿を“元気印のかんおんじ”として表現しています。

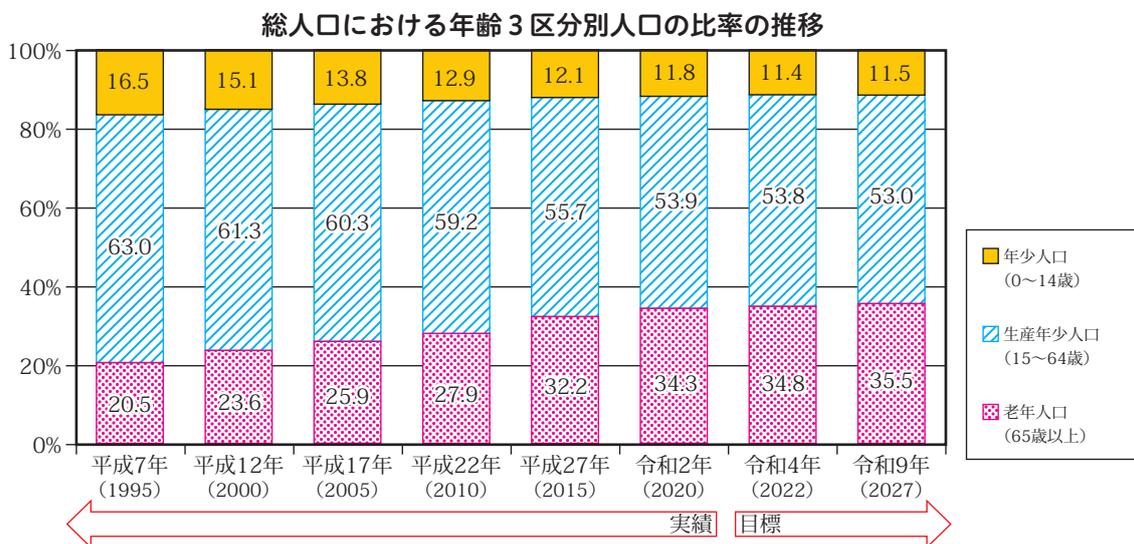
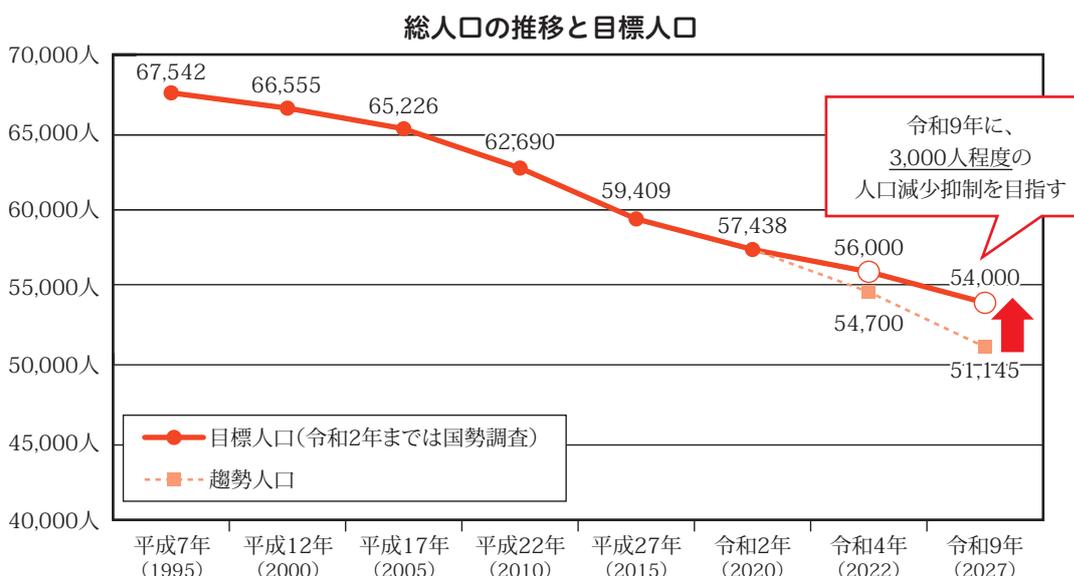
03 将来フレーム

(1) 将来人口

本計画の策定時において、本市の総人口は目標年度である令和9（2027）年には51,000人程度まで減少することが想定されていました。

これに対して、本計画の策定に当たっては、産業振興や交通網の整備、子育て支援体制の強化、教育環境や医療福祉施策の充実、移住や交流の促進、観光振興などの各種施策を講ずることにより、令和9（2027）年度の目標人口を、54,000人と設定しています。

令和2（2020）年に実施された国勢調査における本市の総人口は、57,438人であり、人口の減少傾向はやや緩やかなものとなっています。新型コロナウイルス感染症による影響が懸念されている中ではありますが、人口減少抑制への取組を継続し、目標人口の達成を目指します。

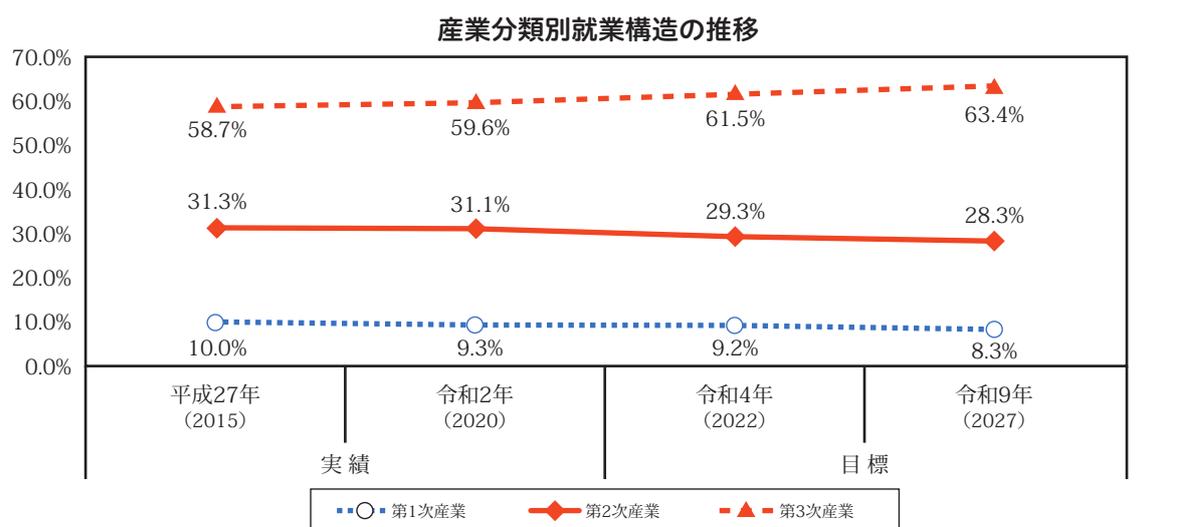
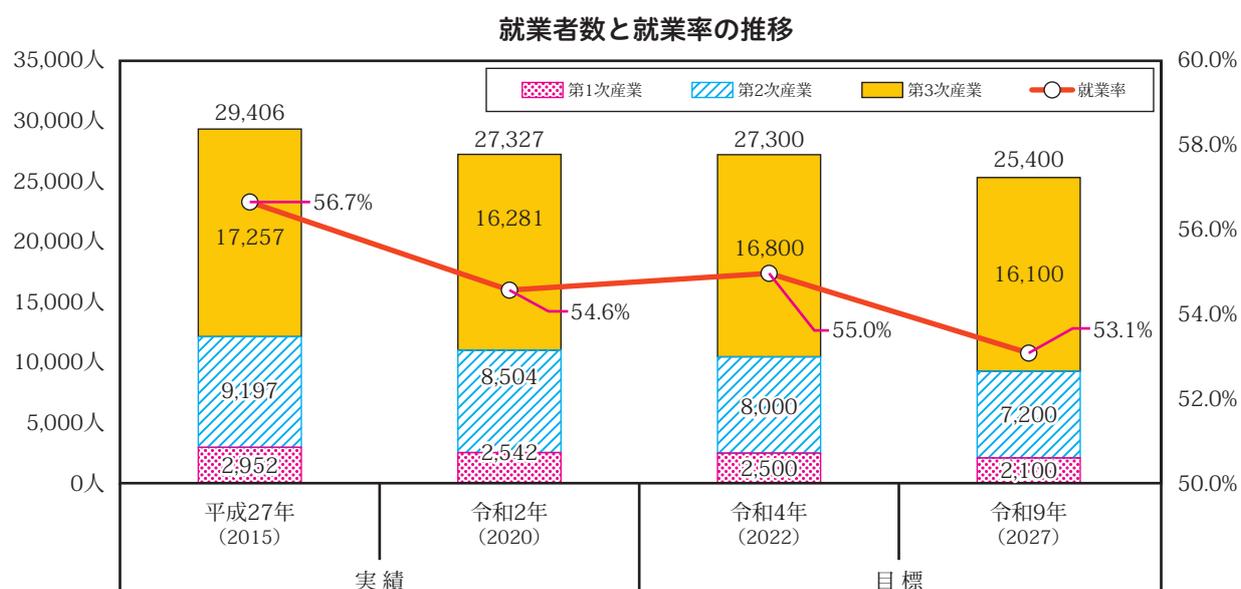


※資料：国勢調査(令和2年まで)
 ※年齢区分ごとの割合は、総人口から年齢不詳を除いた人口から算出

(2) 産業別就業構造

本計画の策定時において、目標年度である令和9（2027）年の本市の就業者総数は25,400人程度、また産業別の就業者数は第1次産業が2,100人（8.3%）、第2次産業が7,200人（28.3%）、第3次産業が16,100人（63.4%）程度となることが想定されていました。

令和2（2020）年に実施された国勢調査における就業者総数は27,327人となっていますが、コロナ禍での影響を受けている点も考慮し、今後も引き続き目標値を据え置きつつ、目標とする就業構造等の実現に向けて、本市の主要産業である農業と製造業をはじめ、新たな担い手の確保や育成、企業誘致による就業機会、多様な業種の選択機会の増加等に取り組みます。



04 土地利用

土地利用については7つのゾーンに区分し、これらを結ぶ基幹的道路体系の整備と合わせて、ゾーンごとに次のような土地利用を進めます。

(1) 中心市街地ゾーン

JR 観音寺駅周辺から既成の中心市街地と市庁舎周辺に至る一帯を「中心市街地ゾーン」と位置付け、本市の顔となるよう面的整備や都市計画道路整備などを進め、中心商業機能や業務・行政機能、文化・交流機能などの都市的機能の集約化による再生と充実を図り、にぎわい空間の核としての整備を進めます。

(2) 市街地ゾーン

中心市街地ゾーンに連担する既に市街地が形成されている一帯を「市街地ゾーン」と位置付け、幹線道路体系の再整備や公共下水道、排水処理施設、公園などの都市基盤施設の整備と、近隣商業機能や防災機能の向上を図り、良好な住環境の確保と創出に努めながら、積極的に市街化を誘導します。

(3) 市街地調和ゾーン

田園地帯の中において既存集落を中心として住宅地などが形成され、一定の生活機能が集積している一帯を「市街地調和ゾーン」と位置付け、幹線道路の整備による市街地へのアクセス向上や田園環境と市街地との調和を図り、良好な住環境の整備を進めます。

(4) 田園保全ゾーン

平坦地に開ける農業環境が整った一帯を「田園保全ゾーン」と位置付け、良好な営農環境の保全に努めます。農地に隣接し集落を形成する地域においては、スプロール^{*}などによる乱開発を防ぎ優良農地の保全を図ります。

(5) 中山間丘陵ゾーン

市の北部と東部から南部にかけて広がる山地や丘陵地一帯を「中山間丘陵ゾーン」と位置付け、防災機能や水源涵養^{*}機能などを保つため、農地や森林環境の保全に努めます。また、点在する集落については、自然と共生した住環境の維持に努めます。

(6) 臨海・産業ゾーン

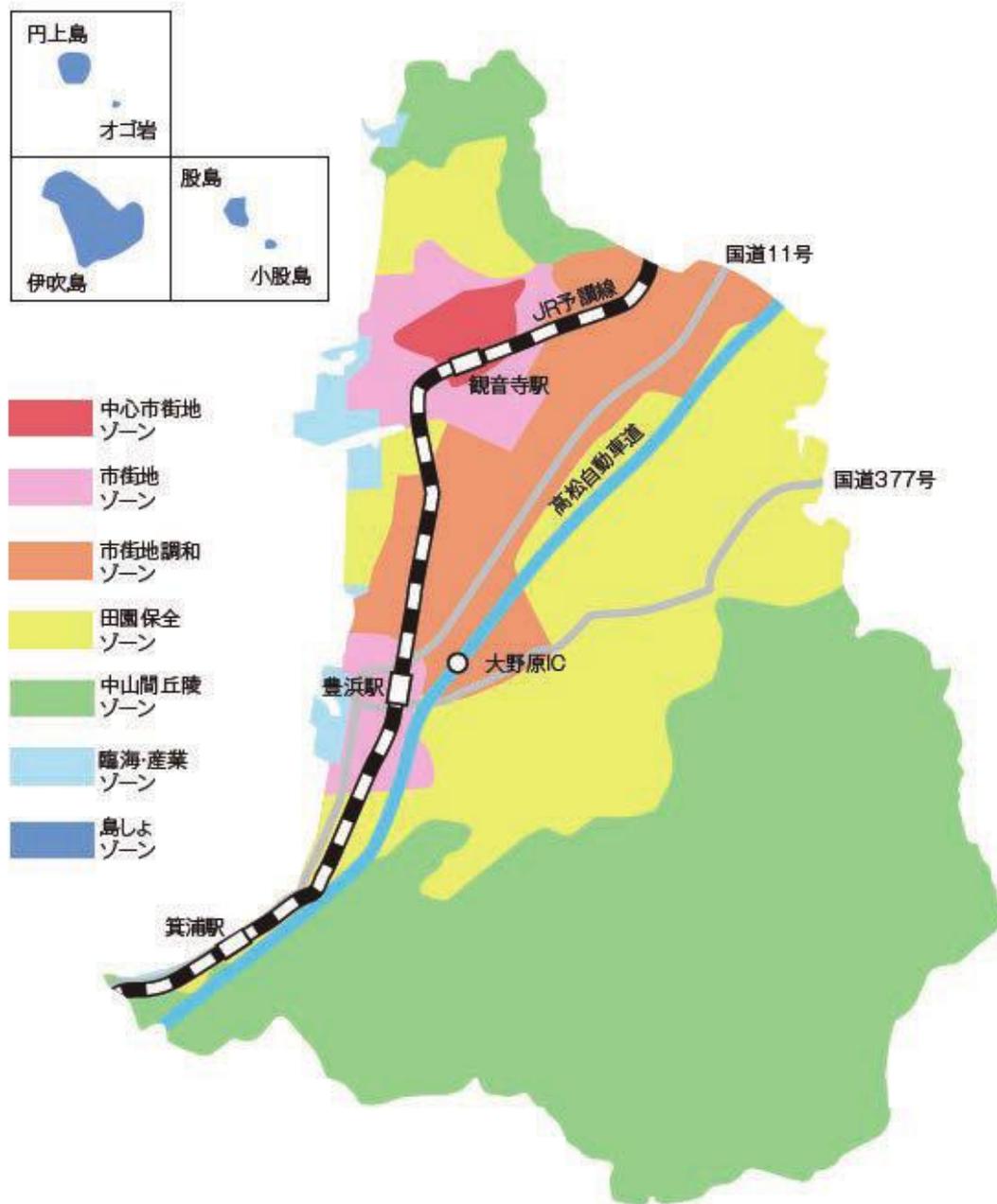
海岸沿いの港や工業団地などの臨海地域一体を「臨海・産業ゾーン」と位置付けます。水産資源を活用した水産業の振興、物流拠点の形成、工業用地の整備充実による積極的な企業誘致など、産業機能の強化に努めます。

(7) 島しょゾーン

伊吹島をはじめとする島しょ地域一帯を「島しょゾーン」と位置付けます。伊吹島については、漁業の振興や瀬戸内国際芸術祭などを活かした観光の振興を図ります。また、漁港施設や生活基盤施設などの計画的な整備に努めます。

その他の島しょについては、動植物の生態系や天然記念物などの自然環境の保全に努めます。

土地利用構想図





第3章 SDGsを踏まえた計画の推進

本計画においては、国際社会全体の開発目標であるSDGsを踏まえ、7つの基本目標の達成に向けた基本施策を展開することで、SDGsの達成と、持続可能な観音寺市の実現につながります。

7つの基本目標

- ① 活力と魅力ある産業のまち
- ② 安全・安心で快適に暮らせるまち
- ③ 新たな交流を生むまち
- ④ 豊かな学びと文化を育むまち
- ⑤ だれもがいきいきと暮らし続けられるまち
- ⑥ 自然と共生した美しく快適なまち
- ⑦ 持続可能なまちづくりのための体制づくり

SDGsの達成と、持続可能な観音寺市の実現へ



SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成を目指す国際社会全体の17の開発目標のこと